

平成31年度 生駒小学校 全国学力・学習状況調査について

1. 国語

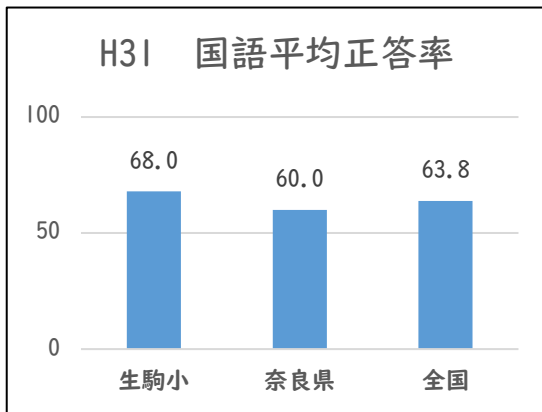


図1

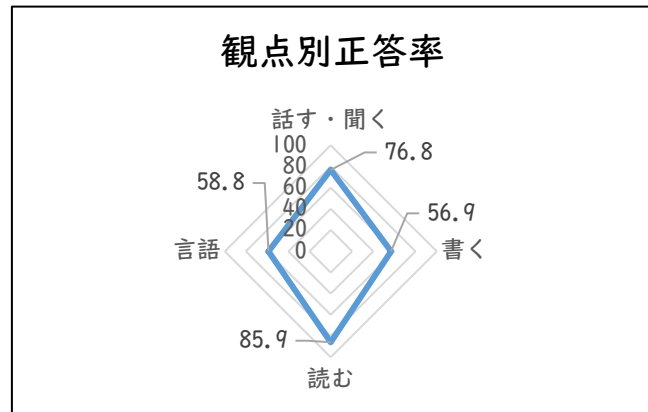


図2

平成31年度の全国学力・学習状況調査では、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題が一体的に出題されたことが特徴です。

生駒小学校の国語の平均正答率は、68.0%でした。これは、奈良県平均（60.0%）や全国平均（63.8%）よりも上回っています（図1）。

評価の観点別の正答率は図2のとおりです。詳しく見ると「話す・聞く能力」（76.8%）、「読む能力」（85.9%）の正答率が、「書く能力」（56.9%）、「言語についての知識・理解・技能」（58.8%）に比べて高くなっています。特に、「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む」や「目的に応じて、質問を工夫する」といった問題は、正答率が高くよくできていました。

一方、「漢字を文の中で正しく使う」ことを問う設問では、正答率が低く、無解答率は県平均や全国平均に比べて高くなっています。「分かっていたつもりだったが、思い出せない」という児童の姿が見られます。漢字本来のもつ意味と使い方を丁寧に指導することや、新出漢字を学習するときに併せて使用例文なども書き、その漢字がもつ意味を理解できるように指導することが大切です。また、語彙力を高めるために読書量を増やすとともに、知らない言葉があっても文の前後から、意味を推測できるようにしていかなければならないと思いました。

「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」問題の正答率は、30.4%で、他の項目に比べて低く、無解答率が高くなっています。具体的な手立てとして、①説明文の学習で、段落の要旨を自分でまとめる活動を増やすことや、②日々の授業の中で、分かったことを自分の言葉でまとめて書くことに取り組んでいきたいと考えます。また、グラフや資料から読み取ったことを書く指導を繰り返すことで、書くことへの抵抗感を減らしていきたいと考えます。

「文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」問題は、正答率が低く、56.9%でした。接続語に着目し、その前後のつながりを考えさせる活動を進める必要があると考えます。そこで、2学期から朝のはげみの時間を利用して、全校で「百マス作文」に取り組んでいます。百マスの原稿用紙に、題材に合わせた文章を書く活動です。

調査結果から見られる本校児童の課題を教職員で確認し、共有した上で、各学年の発達段階に合わせた指導を進めています。